

<u>CLASSE :</u>	文法と文学 GLS-11
<u>Jour :</u>	Lundi
<u>Horaires :</u>	13:30-15:20
<u>Niveau :</u>	B2
<u>M./Mme :</u>	M. Takahiro KUNIEDA
<u>Objectifs :</u>	文法構造、文法項目を精緻に分析しながら、フランス語で小説を読む。
<u>Descriptif :</u>	<p>20 世紀のフランス文学を代表する écrivaine のひとり、Marguerite Yourcenar (マルグリット・ユルスナール 1903 年～1987 年) の <i>Le mémoire d'Hadrien</i> 『ハドリアヌス帝の回想』(1951 年) を精読します。古代ローマ皇帝の内面を精緻に語りながら、歴史と文学を往還するその文体の独創性を原文で味わいます。</p> <p>文学テキストを読む楽しみは、確かに作者の想像した世界に自らも入り込むことにあります。しかし、そこで用いられている言語そのものの正確な理解なしには作品世界の理解もありえません。この授業では、文法構造、文法項目をおろそかにせず、ひとつひとつ精緻に分析することで、作品世界をよりいっそう深く理解していくことを目的とします。</p> <p>授業の構成：毎回 2 ページほど読みます。授業は講師が解説をし、受講者からの質問を受ける形式です。毎回 4～5 人の方に、それぞれ 10 行ほどの訳の宿題を出します。担当になった人は、次回の授業の前日までに自分の訳を電子媒体で講師に送ります。次回の授業の冒頭で添削済みの訳文を配布し、前回の復習と日本語訳の確認をしてから、新しい箇所に入ります。</p>
<u>Matériel :</u>	テキストのコピーを配布
<u>Remarques :</u>	18 年秋学期から『ハドリアヌス帝の回想』を読み始めています。19 年 10 月末日現在、全 350 ページ中の 130 ページを過ぎたところです。